

**【授業の到達目標および概要】**

生物学および微生物学の知識に基づいて、具体的に、無菌操作、細胞培養、生物活性評価など、生物活性評価の手技を理解し、簡単な操作が出来るようになる。ディプロマ・ポリシーの専攻分野における研究能力に関与する。

**【授業計画】** <英語併用可>

- ①② 無菌操作法の実際
- ③④ 細胞培養の実際
- ⑤⑥ 生物活性評価実験の実際
- ⑦ まとめ

**【授業外学習】**

履修者が予定している研究テーマに関する文献を検索し、使用されている生物活性評価の手技について学習をする。1回の授業の予習復習時間として計200分以上行うことが望ましい。

**【成績評価の方法・基準】**

レポートにより評価を行う。提出レポート等に対して、コメントのフィードバックを行う。

**【教科書】**

特になし

**【参考書】**

1. 井出利憲, 田原栄俊著 改訂 細胞培養入門ノート 羊土社

**【教材】**

随時プリントを配布する。

**【備考】**

特になし